

ドングリの豊凶を調べることの意味

島田卓哉

今、世界的にドングリの豊凶現象が注目されています。なぜかという、ドングリの豊凶が人を含めた様々な生き物の生活に影響を及ぼす大きな出来事であることが分かってきたからです。

ドングリの豊凶によって、どんな影響が生じるのでしょうか。まず、ドングリが豊作になると、野ネズミやリスなどのドングリを食べる動物の繁殖が盛んになり、個体数が増えやすいことが知られています。琉球列島に生息する動物でも、オキナワトゲネズミやリュウキュウイノシシの数が、ドングリ豊作後に増える傾向があることが分かってきました。ドングリの豊凶は、森の動物だけではなく、人の生活にも影響します。例えば、ドングリが不作の年にはツキノワグマやイノシシの人里への出没が増え、農作物被害が増えやすくなりますが、豊作の年には被害が少なくなる傾向があります。また、猟師さんの話では、ドングリ豊作の年はイノシシがよく肥えていて質の良い肉が取れるそうです。それに加えてドングリの豊作が感染症のリスクを高めることも分かって来ました。例えば、ライム病というマダニに刺されることによってうつる感染症の患者さんが、ドングリ豊作の翌年増加することが北米で報告されています。これは、ドングリの豊作によって翌年に野ネズミが増え、さらにその翌年には野ネズミに寄生するマダニが増えるためです。人の病気ではありません。ドングリ豊作によってイノシシが増えることにより、最近、しばしば問題になっている豚熱という疫病が、イノシシからブタに持ち込まれるリスクが高まるのではないかと心配もされています。

このように、ドングリの豊凶は、森林生態系から人の生活にわたって広く影響を及ぼす可能性のある現象なのです。そのため、ドングリの豊凶を調べ、ドングリの豊凶がいつ発生するのかを予測することは、ドングリを餌とするオキナワトゲネズミなどの保全を図り、イノシシによる農作物被害に対する対策を講じる上で重要です。

ドングリの豊凶が生じる原因は、まだ完全には分かってはいません。また、ドングリの豊作が生じる周期が最近になって変化しているという報告もあります。岩手県北上山地のミズナラは、平均3年周期で豊作が生じていましたが、2000年以降平均2年周期に変化しました。これとは逆に、海外では豊作周期が長くなったという例も知られています。自然現象は私たちが考える以上に複雑で予測は簡単ではありませんが、より正確な予測を行うためには、調査を長期間継続することによって豊凶のパターンをよく理解することが必要です。

